

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

戸田工業株式会社 大竹事業所

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市明治新開1-4

(3) 業種

無機顔料製造業 1622

2 計画の期間

本計画の期間は、平成12(2000)年度を基準年度とし、2019年度から2022年度までの4年間とする。

### 3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成 年度 ( )	令和 年度 ( )	令和 年度 ( )	令和 年度 ( )	令和 年度 ( )	令和 年度 ( )	令和 年度 ( )
エネルギー 起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO <sub>2</sub>		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 売上額(G¥/年)

温室効果ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成12年度 (2000年度)	令和4年度 (2022)	平成30年度 (2019)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
エネルギー 起源CO <sub>2</sub>	4,209	2,666 36.7	2,584 38.6	2,484 41.0	2,385 43.3	1,834 56.4	1,427 66.1
非エネルギー 起源CO <sub>2</sub>	0.43	0.00 100.0	0.00 100.0	0.00 100.0	0.00 100.0	0.00 100.0	36.00 -8,272.1
メタン	1.97	1.90 3.4	1.91 2.7	1.82 7.4	3.62 -84.1	1.18 39.9	0.23 88.3
一酸化二窒素	3.93	2.10 46.6	2.17 44.7	2.24 43.1	2.40 38.9	1.56 60.4	0.27 93.1
その他 温室効果ガス	0.00	0.00 0.0	0.00 0.0	0.00 0.0	0.00 0.0	0.00 0.0	0 0.0
温室効果ガス 排出量総計	4,215	2,670 36.7	2,588 38.6	2,488 41.0	2,391 43.3	1,837 56.4	1463 65.3
エネルギー消費原 単位 (原油換算 kJ)	1,756	980 44.2	993 43.5	1,013 42.3	1,040 40.8	1,013 42.3	925.7 47.3
実績に対する 自己評価	2022年度は、エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量原単位を削減することができており、良好である。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

#### 4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

##### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	削減量等	具体的な取組
1	燃料原単位の改善	LPG・灯油の原単位を36.67%改善	生産性向上 蒸気漏れの防止 蒸気トラップの改良 熱交換器の洗浄 熱設備の保温強化 廃熱の有効利用
2	電気原単位の改善	使用電力原単位を36.67%改善	生産性向上 待機電力の低減 圧縮エアの漏れ防止 空調設定温度の見直し 冬季空調設備の運転方法適正化 建屋屋根散水による冷却
3			

##### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

##### ○ その他の取組

	項目	削減量等	具体的な取組
1	非エネルギー起源CO2およびメタン及び一酸化二窒素排出量について		2022年度に全社でGHG第3者認証を目指してコンサルを受け、左記項目の内容と計算方法を見直しました。
2	廃棄物埋立量の削減	ゼロエミッションの継続	リサイクル率アップ 廃棄物の発生抑制活動
3	社会奉仕活動		毎月の事業所周辺清掃活動

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。